



ご由緒

天平五年（七三三）編纂の『出雲国風土記』及び延長五年（九二七）成立の『延喜式』に記される古社で、境内地からは四世紀頃の勾玉の破片や、雨乞いなどの宗教儀式で捧げたと考えられる六世紀後半頃の土馬が出土しています。また、古来より「ご祭神は鳴り物がお好き」という信仰から数多くの楽器が奉納され、その中の八四六点が国の重要有形民俗文化財で、今もなお楽器や歌舞音曲（音楽）の奉納が絶えません。



ご祭神



三穂津姫命

みほつひめのみこと
高天原の高皇産霊命の御姫神で、大国主神の御后神。高天原から稲穂を持ってお降りになり、人々に食糧として配り広められた神様で「五穀豊穡、夫婦和合、安産、子孫繁栄、歌舞音曲（音楽）」の守護神として篤く信仰されています。



事代主神

ことしろぬしのかみ
大国主神の第一の御子神。鯛を手にする福德円満の神えびす様として世に知られ、「海上安全、大漁満足、商売繁昌、歌舞音曲（音楽）、学業」の守護神として篤く信仰されています。

ご社殿



本殿

向かって右側の御殿に三穂津姫命、左側の御殿に事代主神をお祀りしています。大社造の二殿の間を「装束の間」でつないだ特殊な形式で、美保造または比翼大社造とよばれています。現在の本殿は文化十年（一八一三）に再建され、国指定の重要文化財です。

拝殿



昭和三年の造営です。船庫を模した独特な造りで壁がなく、梁がむき出しの上、天井がないのが特徴で、優れた音響効果をもたらしています。鳴物をお好みになるご祭神への崇敬から年間を通して音楽の奉納も数多く行われます。

